

峯みねのたより

私たちのお寺、長泉寺の会報誌。

— 会計報告臨時号 —

新装刊 008号
2012年9月15日発行

〒981-1505
宮城県角田市角田字長泉寺69番地
電話 0224 (62) 1004
FAX 0224 (63) 0063
<http://www1.odn.ne.jp/chosenji/>
曹洞宗 長泉寺
六国 長泉寺
国際環境規格ISO-14001 認証取得のお寺

特派布教道場・教区護持会開催報告

墓地整備委員会委員長
墓地管理委員会委員長
遠藤 昭助

去る七月四日に長泉寺を会場に平成二十四年度特派布教道場並びに第六教区護持会が開催されました。教区内十四ヶ寺からそれぞれの御住職と役員併せて三十八名が参集し、長泉寺からは、奥野方丈さんに鈴木欽次郎さんと、私が参加致しました。

初めに十時三十分より本堂で、特派布教道場が開催され、一仏両祖を礼拝し、続いて曹洞宗特派布教師の秋田県仙北市の玉林寺住職齋藤昭道老師の次の様な法話を戴きました。

曹洞宗福山諦法管長のお言葉の中にも有るように、「利他行」（他人を思いやる心を持ち、その行いをする事）等について、具体的な例をあげながら約一時間半程に亘り、詳細に説き聞かせて戴き、心が洗われ、清々しい思いが致しました。

場所を書院に移し、第六教区護持会総会を開催。会長と教区長の挨拶に続き、表彰状の伝達がありました。次に報告並びに協議に入り、平成二十三年度事業報告及び決算報告、二十四年度事業計画と予算案がそれぞれ原案通り承認され、無事総会が終了致しました。

以上、七月四日に長泉寺を会場に開催された特派布教道場並びに教区護持会の報告と致します。

修証義と私

長泉寺責任役員長

鈴木 欽次郎

私は、関東大震災の翌日に生まれました。そのせいではないのですが、私の青少年時代は戦争が絶え無い時代でした。

小学校入学の翌年に満州事変が勃発、卒業の翌々年に日支事変が始まり、伊具農蚕学校を卒業した昭和十五年の翌年には大東亜戦争に突入したのです。

戦争中の青年は、誰でも軍人にならなければならなかったため、軍隊に入る前は、その準備に余念がありませんでした。その準備の一つに、軍人の聖典とも言えるべき軍人勅諭の暗唱がありました。勅諭の暗唱ができないと、入隊したとき苦労すると先輩から教えられて居たので、軍人勅諭を何時もポケットに入れて置き、暗唱できるように心掛けたものでした。

私は昭和十九年四月、二十一歳で、首都防衛の陸軍防空隊に入隊しまし

と言う言葉がありますが、何度も何度も読んで居ると、意味が分かるような気がしてくるのでした。軍人勅諭を思いだし、暗唱出来るようにしようと、修証義を何時もポケットに入れて居ました。

「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり、生死の中に仏あれば生死なし、但生死即ち涅槃と心得て、生死として厭うべきもなく、涅槃としてねがうべきもなし、この時初めて生死を離るる分あり、唯一大事因縁と究尽すべし」。戦時中の死生観に通じるところがあるような気がして親しみが湧き、毎日口ずさんで暗唱を心掛けました。

「暗唱しなくてもよいから、出来るだけ多くお経を読むように努めた方がよいのではないだろうか」と何方か忘れてしまいました。お坊さんに言われたことがありましたので、暗唱は止めて、出来るだけお経を読むように心掛けたと思つて居ました。

お葬式や法要などの読経のなかに修証義が出てくると、混乱した終戦直後のいろいろな出来事が、走馬灯のようになつかしく思い出されてまいります。

両会計報告に関連する各種会議においてご尽力をいただいた役員の皆様方を代表して、鈴木欽次郎様と遠藤昭助様に「寄稿いただきました。また、長泉寺住職からのご挨拶を巻末に掲載させていただきました。



臨時号発行のご挨拶

長泉寺住職
奥野 成賢

お陰様で昨年3月の東日本大震災による庫裡、山門等の修復工事も一段落することが出来、震災のため報告が遅くなっていた「本堂再建事業会計報告」とともに「震災改修事業会計報告」をここに報告申し上げます。なお、いずれの会計報告も全体役員会にて満場一致でご承認いただいたものであり、檀信徒の皆様方

のご理解とご協力に対し、あらためて心より御礼申し上げる次第であります。

新本堂建設に伴い、一時解体保存中の「臥牛門」の原状復旧工事も震災で壊れたままになっている土蔵の問題等、懸案事項がありますが、それらはいずれ時機をみてとして、両工事とも一応の区切りとさせていただきます。誠にありがとうございます。

き、ここ聖護寺で開催される曹洞宗立専門道場に7カ国・14名の海外僧の方々とともに監事の配役をいただき、禅の修行にいられています。8月〜11月の3カ月の間、角田と熊本との間を行ったり来たりのご生活が続きます。

近い将来、角田の地にも長泉寺修行専門道場が再開される日が必ず来ることを毎日毎日夢みております。皆様方の一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

ミネ幼稚園の環境保全活動が受賞!!

地球温暖化防止活動環境大臣賞 環境教育普及啓発部門

昨年12月14日、東京都で開催された「平成23年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」において、ミネ幼稚園が環境大臣賞（環境教育・普及啓発部門）を受賞し、表彰状を授与されました。この表彰は、環境省が地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人や団体の功績を讃えるもので、平成10年度から毎年、地球温暖化防止月間である12月に実施されています。

このたび受賞した環境教育・普及啓発部門とは、地球温暖化について「教育資料の開発、情報の提供、学校や市民、企業内における教育活動や普及・啓発等」を評価

される部門です。園児たちをはじめ、お寺や教職員、保護者や地域の方々皆で協力して活動していること、そして一時的な活動で終わらず生活の中に浸透させて、卒園してからも活動の継続を目指していることなどが、高く評価されました。

ミネ幼稚園では「礼儀・慈悲・智恵・自立・環境」を保育目標としており、園児募集要綱にも「未来のこどもたちのために質の高い環境教育を実践しています」と宣言しています。今回の受賞を励みに、今後さまざまな環境保全活動に取り組んでまいります。



授賞式では細野豪志環境大臣から表彰状が授与されました。



表彰状

地球温暖化防止活動環境大臣賞
環境教育普及啓発部門
ミネ幼稚園
園長 奥野成賢 殿
貴園が環境省主催の「平成23年度地球温暖化防止活動環境大臣賞」を受賞し、表彰状が授与されました。このたびは、環境省から表彰状が授与されました。このたびは、環境省から表彰状が授与されました。

曹洞宗 Q&A

このコーナーでは皆様からのご質問をお待ちしています。どんなことでもお気軽にお訊ねください。

【Q】葬儀後から一周忌までの法事はどのように営むのでしょうか？

き言葉や行いを偲び、自らもそれにならうことです。また、供養は「お供えし奉る」ことです。また、供物を供える物質的な行為だけでなく、精神的な行為も伴っていないといけない。故人を偲ぶことを通して、遙かな昔から続くご先祖様の命の連なりが自分にも注ぎ込まれていることに気が付き、自らを省みてより良い生き方を実践していく契機にしたいものです。一周忌までの法事は左記のように営みますが、そのつどこのような心がけて行ってください。

法要	忌名	亡くなった日から数えて	営み方
初七日	初願忌	七日目	前晩または当日に、僧侶・親族・知人を招きます。法要とは会食のみをする場ではありません。
二七日	以芳忌	十四日目	
三七日	酒水忌	二十一日目	
四七日	阿経忌	二十八日目	それぞれ、あらたまった法要は行わないことが多いですが、墓参などを身内だけで行う場合が多いでしょう。
五七日	小練忌	三十五日目	
六七日	檀弘忌	四十二日目	
七七日 (忌明け)	大練忌	四十九日目	一般にはこの日が忌明けとなり、親族・知人を招いて法要を行います。葬儀から安置していた白木のお位牌を黒塗りのお位牌に変え、その際には位牌点眼が必要となります。新しく仏壇を設置された場合も同様です。断折念札、神棚封じもお焼上げします。詳しくはお寺へご相談ください。
百日日	卒哭忌	百日目	墓地(墓石)にお祀りしてある白木位牌をお寺へ納め、読経をいただきます。
一周忌 (喪明け)	小祥忌	一年目	喪明けとなります。親族・知人を招いて法要を行います。故人の正当命日か、それ以前に法要を行います。